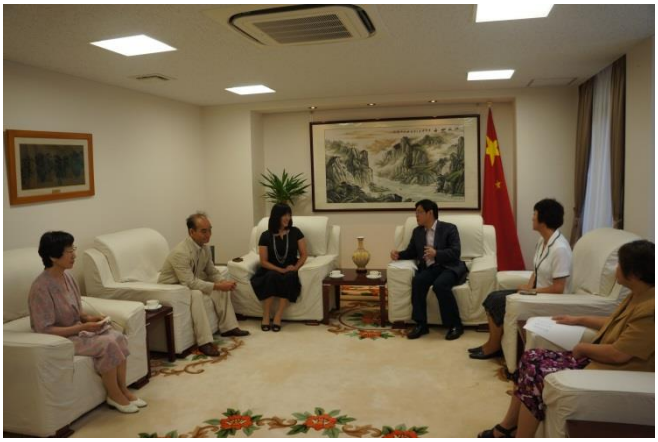
交流

発行日:平成25年12月1日 第16号

福島日中文化交流会　事務連絡先
〒960-0613 福島県伊達市保原町字内町21-5
Tel/Fax 024-575-2071 携帯:090-2360-3275
Email:mayumi_mihojp@yahoo.co.jp
URL:http://www.rizhongwenhua.com

承蒙款待

岩間真弓



平成２５年８月３０日（金）私ども役員８名一行は、中華人民共和国駐新潟総領事館王華総領事のお招きで、新潟総領事館へ訪問して参りました。

８月上旬、昨年の当福島日中文化交流会が開催した『繋がろう心の輪』のコンサートへ、新潟からお出でいただいた鐘発麗領事から「王華総領事が、福島で活躍する岩間会長はじめ福島日中文化交流会の役員のみなさん全員を、是非、わが新潟総領事館へお呼びし、食事にご招待したいと申しております。」という電話があり、このような機会はめったにない事と思い、総領事のお言葉に甘え行って参りました。

私は、日中友好の仕事に２４年間携わり、組織の中の一人として中国大使館に招かれたことは何度かありましたが、このように団体が評価され、総領事から直々に招待されることは皆無だったので、大変驚きました。そして、私たちは一台のワゴン車に乗りつけ、雨模様の天気ではありましたが、楽しい雰囲気の中車を進め、およそ二時間半で領事館に到着いたしました。

今回、気持ちの伝わる手土産は何が良いだろうかと役員同士思案し、中合で買った大七の名酒二本と福島のおいしい桃二箱、宇治茶を二箱準備し持ってまいりました。到着すると鐘発麗領事と潘暁景領事、そして宮暁冬副総領事に迎えていただき、会見室へと案内されました。オレンジ色のきれいな花模様のあるふかふかの白い絨毯が敷かれた部屋へと入り、中央のソファに促され、少しすると王華総領事が入って来られました。王華総領事には、流暢な日本語で「ようこそ新潟総領事館へお出でいただきました。すばらしいご活躍をされているとお聞きしております。」とにこやかに迎えていただきました。３月にお会いした時も、また、今回お会いした時も「私たちは、心から日本の人たちと仲良くしたいと願っているのです。」とおっしゃっていて、この言葉こそが王華総領事のお気持ちそのものなのだろう、と強く感じました。そうでなければ、同じ言葉が出てくるわけがありません。私からも会を代表し、「私たちのような民間の名もない団体を認めていただき、恐縮いたします。

私たち会員一同は、みな中国が大好きで中国語会話教室をはじめたくさんの活動を行っており、民間の団体ではありますが、日中友好のためにみなで力を合わせ日々努力しております。」とあいさつをさせていただきました。そして、王華総領事からは、「今、日中関係が冷え込んでおり、大変困っています。みなさんのような民間の団体が、日中間の関係改善のためにがんばっていただきたいと願っております。」とエールをいただいたのでした。

その後、眺望のいい、大きな丸テーブルのある会食室へ移動しました。中国では、丸テーブルに座る時もきまりがあり、私は主人が座る隣の席に案内されました。主人とはもちろん、王華総領事のことです。その後、呉鉄人領事も加わり和やかな宴会が始まりました。

さて、いただきましたお料理についてご紹介させていただきますと、各吃凉菜（前菜盛り合わせ）、鴿蛋蘑菇汤（うずらの卵ときのこのスープ）、生煎包（焼肉まん）、红扒排翅（フカヒレの醤油煮込み）、扬州狮子头（揚州風肉団子）、黒椒牛柳（牛肉の黒胡椒炒め）、蒜茸荷兰豆（さやえんどうのニンニク炒め）、阳春面（陽春麺）、冰淇淋（アイスクリーム）などといったものでした。今回お料理を作ってくださったコック長は、王華総領事がわざわざ江蘇省からお連れした方だそうです。「本日のお料理は、“淮扬料理”で私のふるさとの料理です。みなさんのお口に合えばうれしく思います。」とメニューをご紹介いただきました。メニュー表には金色に光る天安門と、五つ星のある赤い国旗をあしらった中国大使館のマークが入っていました。そして、中国大使館のマークが付いた蓋付きの陶器の入れ物（保温するためのもの）に入った紹興酒で乾杯し、会食が始まりました。上記のお料理が一つひとつ丁寧に、そして美しく盛り合わされて出てまいりました。どれも味が上品でおいしく、王華総領事のおもてなしの心が伺えました。このように、料理一つにしても大切な客人として扱われているのが随所に感じられ、本当に心から総領事館の先生方に感謝を申し上げたいと思いました。

ふと食事の最中に、私は三国志演義の中の最初の場面「桃園の誓い」を思い出しました。ご存知のように劉備、関羽、張飛が桃の木の下で、劉備の母親が準備してくれた心づくしの手料理とお酒で宴会を開き、義兄弟の固い絆を結ぶという場面です。遠い昔から中国人は、“仲のいい関係を作るのには、先ず一緒に食事をする”ということを重視しているのではないかと思いました。そうであれば、食事に招いてくれた王華総領事は、私ども福島日中文化交流会と、ずっと仲のいい関係を作って行きたいと思っていただいているのではないかと感じました。この日、王華総領事は、午後から東京へ出張に出かけられる用事があったにもかかわらず、時間を割いて私たちを招待していただいたのでした。本当に光栄なことです。感謝申し上げます。

おいしい料理をいただき、温かいもてなしを受け、帰りの車の中は大変な盛り上がりでした。役員の中で中国人の張萍さんもご一緒したのですが、車の中で「今日食べた“鴿蛋蘑菇汤”は、“うずらの卵”と書いてあったけど“うずら”じゃなくてこれは、“鳩”の卵ですよ。鳩の卵って“まるまる”なの。卵“まるまる”だったでしょ？」と楽しそうに教えてくださいました。なるほど、うずらの卵でしたら先がとがっているはずなのに今回食べた小さな卵の先は、とがってはなく本当にくるりんとまるい珍しい卵でした。本当にこの日の宴会でいただいたお料理どれもが珍しく、上品でおいしいものばかりでした。

この度、王華総領事から貴重な経験をいただきました。心から感謝を申し上げたいと思います。

私は、これからも王華総領事や宮暁冬副総領事、お世話になった領事の方々の温かなお気持ちを大切にし、友好交流を続けていきたいとあらためて心に誓いました。ありがとうございました。承蒙款待!ごちそうさまでした。

平成２５年定期総会開催

石川　孝彦

福島日中文化交流会の平成２５年度定期総会は７月１５日１７時３０分より古関裕而記念館で開催された。

最初に岩間真弓会長の挨拶があり、次に総会の議長に渡辺永治さんを選出し議事審議に入った。議事審議にあたっては岩間真弓会長が平成２４年度の活動報告および会計決算報告を行い、活動報告および会計決算報告とも満場一致で承認された。

つづいて岩間真弓会長より平成 25 年度活動計画と会計予算について提案説明があった。活動計画中「第６号議案　役員の改選について」については本人の都合により佐藤満理事が辞任したこと、および活動のより一層の充実を図るため、理事の定数を現在１０名のところ 11 名に増員すること、１名欠員になっていた監査を補充することについて総会に諮ったところ満場一致で同案は議決され、新任理事には菅野隼人さんとジャンピンさんが、監査には山元隆雄さんを選出し、他の役員は再任となった。その他の活動計画および会計予算はともに満場一致で議決成立した。(議案の詳細は総会資料参照のこと)

以上で平成２５年度総会は無事終了した。

暫時休憩後、アトラクションとして語り部、菊地あや子さんによる昔話「飴かい幽霊」およびオトゴンバートルさんによる馬頭琴の演奏を楽しみ盛会のうちに 20 時１５分総会は全日程を終え散会した。

日本花架拳　特別講習会に参加して

尾形尚美

吉川先生のオーラがものすごくてびっくりしました。動きもなめらかで（当たり前ですが）素晴らしい体験でした。ありがとうございました。

中国新潟総領事館訪問

齋藤佐久男

平成 25 年 8 月 30 日、岩間会長を初め役員 8 名の方たちと中国新潟総領事館のご招待を受け、訪問してまいりました。

中国新潟総領事館は新潟市内の元音楽学校の跡地を利用しているとの事でした。建物は斜面を利用した 5 階建てで、道路に面した２階が正面玄関です。当日は生憎の雨模様でしたが、車の玄関横付けを許可していただき、雨の影響を受けずに訪問することが出来ました。

レセプションルームにて、王華総領事、宮暁冬副総領事、潘暁景領事、鐘発麗領事の歓待を受け、皆さんそれぞれ日本語が堪能なのですが、特に王華総領事は流暢な日本語で、私たち一人一人に話しかけてくださり、皆さんそれぞれに中国とのかかわりや思いを披露しました。また、王華総領事からこれまでの福島とのかかわりや、公式な友好だけでなく民間交流を大切にしたいとの熱い思いを聞かせていただきました。

その後５階ホールに場所を移しての会食となりました。この部屋は最上階にある円形の部屋で、ちょうど私の席からは視界全てがガラス張りの眺望で、３６０度の新潟市内を見渡すことが出来ました。私の左隣が宮暁冬副総領事で、落ち着いた知的な女性で、その日の料理の説明や、福島との思い出などを話していただき、実際中国に行くと、この様に冷静に常に二三歩先の対応をしてくれる人たちに会うなと改めて思い返しました。右隣の呉鉄人領事は、良く食べ、良く飲み、良くしゃべる、当に中国の方というと真っ先に思い浮かべるような方で、その場の全員を楽しませてくれました。

楽しい時間は直ぐに進み、帰るときには午前中の雨も上がり、お腹も心も充実して、王華総領事を始め中国新潟総領事館の全てのスタッフの皆さんに感謝し新潟を後にしました。

菅野隼人

中国新潟総領事館に着くと、王華総領事をはじめ、領事の方々が私たちを温かく迎えてくださいました。応接室では、私たち全員に話しかけ、それぞれが日中友好のために取り組んでいることを聞いてくださいました。日本と中国の国交がない時も、民間のつながりが交流を支えてきており、今も民間の交流が官を動かしてきたという総領事館の考えを聞くことができ、私たちの活動の大切さを理解してくださっていること、また、それに自分自身が改めて気づくことができて大変うれしく思いました。そして、今後も様々な形で交流していきたいという想いも感じ取ることができました。さらに、留学の相談も受けたい、領事館に何でも相談してほしいと、強く私たちを受け入れてくださいました。

それから、景色が見渡せる広々とした部屋に場所を移し、会食となりました。大きな円卓のあるこちらの部屋に来ることができたのは 2 回目でした。

1 回目は、2012 年 5 月に中国新潟総領事館が主催する第 11 回「漢語橋」世界大学生中国語コンテスト予選新潟大会に参加した時です。「私の中国に関する夢」をテーマにスピーチをして、「北国の春」を中国語で歌ったことを思い出しました。大会後の懇親会で、このきれいで大きな円卓のある部屋で審査員の方々やコンテスト参加者と話しながら食事をとりました。

1 年近くたって、またこの部屋に来ることができて光栄です。日本語教育に携わりたいとの想いから、当会の活動に参加することに決めた当時の私を振り返るきっかけになりました。これからも、私と私たちの活動が日中友好の強い力になるように尽力してまいりたいと思います。

矢部良子

今回は得難い体験をさせていただきました。約 1 時間の懇談では王華総領事他領事の方々は流暢な日本語で話して下さいました。私は中国語で自己紹介を準備していましたがこれを使うことはなく安堵と少々の拍子抜けもしました。

午餐会で私の隣席に教育担当の潘領事、真向いには料理担当の呉鉄人領事（自称鉄人 28 号）でした。総領事から呉領事が揚州出身なので今日は揚州料理を提供してくださると紹介されました。初めていただいた料理は前菜からデザートまで清淡で素材の味を十分に生かしたものでした。

揚州と聞いて私が即思い出したのは金庸の武侠小説「射彫英雄」の中の描写でした。これを話した時の潘領事の表情からハタと不適切だったかと気付きました。これは純文学ではなく大衆文学のジャンルだったなと…。

私が金庸作品を読むきっかけとなったのは NHK の中国語講座で取り上げられたことがあり武術の描写が多くあったので興味を持ったのです。さらに揚州は美人が多く商売も賑やかたったことは鉄人領事により紹介されました。妓楼のことなどにはふれずに良かったと思います。

次にお会いする機会があればお伝えしたいことがあります。

まず太極拳については中国の各武術家が本来は門外不出のものを「簡化 24 式太極拳」にまとめ惜し気もなく世界中に紹介したから私さえも学ぶ機会に恵まれたことです。74 歳の現在も心身ともに健康でいられることへの感謝の気持ちです。

次に 1938 年ノーベル文学賞受賞者パール・バック（米）の「大地」の主人公が知恵遅れの娘をとても大事にする表描に感動したことが私の障害児教育（特別支援教育）に興味を抱き取り組むきっかけの一つになったことです。

今後とも私たちの日中文化交流会活動を通じて人と人の和をはぐくんでいきたいと思います。

山元隆雄

今回福島日中文化交流会として今までの活動が評価され、王総領事から直接の御招きを受け訪問することが出来ました事役員の一人として光栄に思います。

到着時には入り口にて出迎えを受け、部屋に通されると領事館の職員の方が日本語で対応して頂いたので一安心しました。王総領事以下総出で迎えて頂き改めて王総領事が岩間会長や福島日中文化交流会に対して日中友好に貢献している事を認め、今後も期待している事を感じました。また王総領事は私たち一人一人に日本語で話しかけて頂き、少しでも日本人の考えを理解しようと努力されていると感じました。また、東日本大震災に対してもいち早く支援や援助をして頂いたとお聞きし、本気で日本と仲良くしていきたい王総領事の気持ちが伝わってきました。料理は見たことも、聞いたこともない扬州料理でした。一品ずつ王総領事自らの説明を受けながら、美味しく、楽しく　頂きました。

王総領事の話にもありましたが現状の日中関係の政治解決は難しいと思います。今必要なのは私達が進めている小さな日中共同作業が必要だと感じました。私もその一人として今後も係わって行きたいと思います。中国　新潟総領事館の皆さん本当にありがとうございました。感謝感謝！！

渡部千佳子

8月30日（金）、当交流会役員の男性4名、女性4名、計8名が新潟の中国領事館からのご招待を受け、一行新潟へ向かった。途中雨が降り出したが、予定通り11時頃領事館へ到着。

先ず来賓室に通され、まるで中国にひとっ飛びの気分！王華総領事からのご挨拶の後は、宮副領事、潘領事、鍾領事もご同席の中、各人の自己紹介となり、和やかな雰囲気になった。その後は上方の階へ案内され、直径5～6メートルもあろうかと思う程の超大きな円卓にビックリ！宴席では、年齢を感じさせないエネルギッシュでユーモアのある呉領事が加わった。巨大なテーブルに次から次と運ばれてくるお料理は“揚州菜”。薄味ながらよく味の染み込んだキュウリ等の前菜から、揚州の有名な郷土料理である“狮子头”や、柔らかくて美味な牛肉等に舌鼓を打ち、口も滑らかに楽しい交流となった。いつの間にか「Z女士」の前には白酒の飲み干された盃がいくつも並んだのには、大いに座が盛り上がった。領事館を出る頃には、すっかり雨も止み無事帰路に着いた。

このような心温まる中国領事館のご招待にとても感激し、貴重な経験ができたことに感謝感謝!!です。

中秋節交流会

日本語スピーチ
『吾妻小富士について』

大橋順子

福島市内から見ると西部に位置する吾妻小富士。この名前は福島市から眺めた形が富士山に似ていることから呼ばれている。標高１７０７メーターの山です。

私は何回も吾妻小富士に登ったことがあり、初登りは１２年程まえの早春の福島で、山のさくらが咲いている頃でした。

山の残雪も残っておりました。吾妻小富士には早春に東北斜面に「雪うさぎ」と呼ばれる残雪の形が見ることができ、さらに印象が深く思えます。また、山頂からは安達太良山や磐梯山、そして吾妻山の山並みを見ることが出来ます。素晴らしい景色です。１箇所、もくもくと煙を出している所があり、　その様子は小さな火山のようです。

吾妻小富士は一時間ほどで駐車場から噴火口の上を廻って帰ってくることが出来ます。本物の富士山と違って、軽装でできるので、観光客も大勢来ています。

今年の６月も吾妻小富士に震災以来、登りました。その時は、中国からのお客さんが一緒で、私は、福島の観光場所として迷わずそこに連れていきました。

その日の福島市内は雨曇りでした。そして車で山を登る途中も霧で前方３メートルほどが見えない状況でした。しかし山の頂上にさしかかった時、何ということでしょう？青空が見えてきたのです。お客もびっくりして風景写真を撮りはじめました。とても美しい景色がそこには有、山頂まで登ってさらにそこから見える、噴煙や山々、そして空と風景の絵のような美しさに感動して一生忘れないと言っていました。

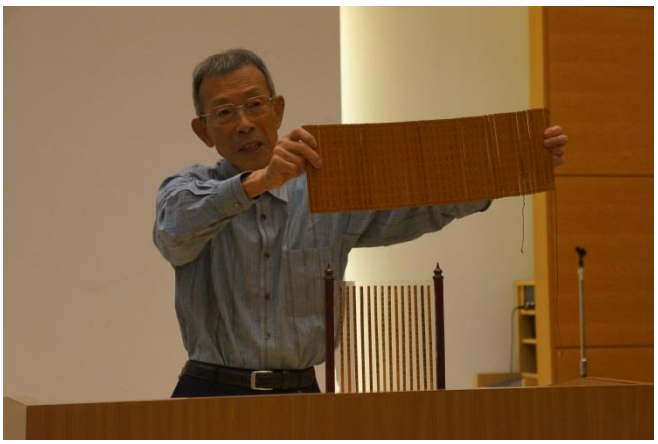
皆様　是非、吾妻小富士を登ってください。季節ごとに風景や様子が違います。これから私も秋の紅葉シーズンにはまた登りたいと思っています。

２０１３年9月１５日

山尾祥大

初めて参加した中秋節交流会。体で五感でそして心で、中国の文化を満喫できた有意義な機会でした。体では、「烏鴉」の劇に出演させて頂き、ハラハラ緊張も愉快に演じられホッとしました。味覚と嗅覚で、月餅やハミウリなどの甘い香りと美味に納得。視覚や聴覚では、「大地の子」の名演や太極拳の乱れぬ演技に拍手。触覚でも、指書道でとても貴重な体験を得られて良かったです（当然、先生の見事な作品の足元に及ばぬ愚作でしたが…)。あっという間でしたが本当に楽しいひと時でした。

先日、ある新聞の中国人の方のインタビュー記事が目に留まりました ―「中日関係は紆余曲折があるけれども、本当は友好になれる。毎年、大勢の友人が中国から日本に遊びに来るし、日本の友だちの中国のイメージも悪くなんかない」― 隣国隣人への興味や慕い、文化や思想への敬意や親しみは相互に確かに存在する。そのことを当日の和やかで愉快な雰囲気の中で改めて実感しました。まん丸やわらかな月餅を見つめて、日中が満月のように円満になっていけたら。そんな思いとともに、自身もそんな月のほんの一部でもなれればと感じ、また月餅を美味しく頬張るのでした。



結い・ゆい・フェスタ 2013

菅野隼人

9月22日（日）にA.O.Z（MAXふくしま４階）に当交流会がブース出展をしました。大勢の人が来場していてとても賑やかでした。

私たちのブースでは中国新潟総領事館訪問の際の写真を11枚、馬頭琴などの民族楽器を展示しました。また、中国切り絵を来訪者の方々に体験していただきました。ブースに6、7席を用意することができ、それらが満席となりました。好きな色の画用紙の上に、下絵を重ねて、四方をホッチキスで止めていきます。それから専用のハサミを使って画用紙と下絵を一緒に丁寧に切り抜いていきます。みなさん夢中になって取り組んでいらっしゃいました。

ステージでは岩間先生がフルスを演奏し、佐々木さんが箏（高山流水）を演奏し、会場が大変盛り上がりました。

中央地区文化祭　寸劇『大地の子』

佐々木なおこ

平成２５年１０月５日（土）、福島市公会堂で開催された中央地区文化祭にて、福島日中文化交流会が寸劇「大地の子」を発表しました。

「大地の子」は山崎豊子さん原作、中国残留孤児・陸一心（りくいっしん）の波乱万丈の半生を描いた物語です。社会問題に鋭く切り込んだ作品で多くのベストセラーを生んだ山崎豊子さんですが、折しも９月２９日に８８歳で亡くなられました。文化祭当日は、「追悼～山崎豊子さんに捧ぐ」と題し、出演者一同追悼の意を込めて発表を行いました。

劇では、中国人養父の陸徳志が、西蒙古へ転属処分となった陸一心へ日本行きを促す場面と、徳志が自分の命を犠牲にしながら幼い一心を助けようとする回想シーンという２つの場面を演じました。セリフはすべて中国語、スライドによる日本語字幕付きで行い、１０名の会員が練習の成果を

発揮、熱演しました。ラストは、中国に残ることを決意した一心（役：斎藤佐久男さん）が「私には、この中国の大地が私の父なんです！私は、この大地の子です。」という感動のシーンで幕を閉じ、会場からたくさんの拍手をいただきました。

今回私は、陸一心の娘・燕燕役と、回想シーンの一心（子役）の二役をいただきました。本番はとても緊張しましたが、他の出演者の皆さんの優しさと団結力に支えられ、最後まで演じることができました。１５分間という短い時間でしたが、会の活動を観客の皆さんにしっかりとアピールすることができたのではないかと思います。

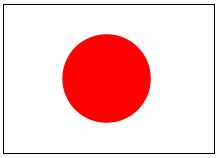
中国語・演技指導を行っていただいた李淑薇先生、台本・大道具小道具・衣装などすべて準備してくださった斎藤佐久男さん、練習に励まれた出演者の皆さん、そして、文化祭の総合司会という大役を務められた岩間会長、本当におつかれさまでした。大変素晴らしい機会をいただき、ありがとうございました。

猪股　宗男

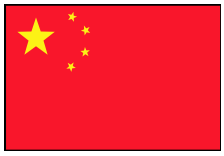
「大地の子」の作者、山崎豊子さんが９月 29 日に亡くなられました。
日本と中国の一番不幸な時代に生まれ、生きた「大地の子」、その人間ドラマを今日、
福島日中文化交流会が中国語劇として公演しました。大きな感動を覚えました。

日中両国の友好交流、文化交流活動がますます発展することを願いながら、私なりに力いっぱい演じてみました。山崎先生いかがでしたか。

名作は永遠に忘れられることはありません。日中の友好交流も忘れられることはありま
せん。先生のご冥福を心からお祈りいたしております。どうぞ安らかにお休みください。



お知らせ



いつも福島日中文化交流会へのご支持とご協力感謝申し上げます。

平成２５年度の会費及び各種会費納入のお願い

下記へよろしくお願いいたします。

会費納入について

(1)　郵便局振込みの場合(お近くの郵便局で)
　02220-7-105525　福島日中文化交流会

(2)　銀行振り込みの場合
　振　込　先:普通預金　東邦銀行保原支店
　口座番号:733649
　名　義　人:福島日中文化交流会
　　会長　岩間真弓
　住　　所:〒960-0613
　　伊達市保原町字内町 21-5

(3)　会費について
　法人会員　10,000 円　　個人会員　　3,000 円
　中国人会員　500 円

中国語会話教室からお知らせ

◎　中国語会話教室第42期募集開始！

日時:平成25年10月～平成26年3月
場所:福島市中央学習センター
内容:

入門
講師:岩間真弓　補助講師　宋文静
毎週木曜日午後6時 00 分～7時 00 分

初級
講師:岩間真弓　補助講師　宋文静
毎週木曜日午後7時15分～8時45分

中級
講師:李淑薇
毎週火曜日午後6時 30 分～8時 30 分

費用:一ヶ月 3,000×6 ヶ月＝18,000 円
※一クラス分の授業料で 3 クラス受講可能
※各クラス授業日は都合により変更する場合あり。

◎第82回中国語検定試験開催

日時:平成26年3月23日(日)
場所:福島テルサ
内容:準 4 級･4 級･3 級･2 級･準 1 級

「当面の行事のお知らせ」

1　花架拳教室
日時:毎月第2日曜日(都合により変更もある)
場所:福島市中央学習センター
内容:護身術である花架拳を演舞する
費用:1 年分　9,600 円(800 円×入会月から)
講師:日本花架拳学会　飯田加寿子

2　健康マージャン教室
日時:毎月第2日曜日(都合により変更もある)
場所:福島市中央学習センター
費用:1 年分　6,000 円(500 円×入会月から)
内容:吸わない･飲まない･賭けない健康なマージャン

3　日本語教室

日時:毎週木曜日 16:00～18:00
場所:福島市中央学習センター

講師募集！
内容:中国人に日本語を教える
＊講師料はお支払いできません。教科書各自負担。

『福島日中文化交流会ホームページ』
http://www.rizhongwenhua.com/

≪編集後記≫
本号もよろしくお願いいたします。
(編集担当)